

循環器内科領域での主な診療内容は、虚血性心臓病、不整脈の診断と治療および心不全の治療です。

I 虚血性心臓病の治療：経皮的冠動脈治療（PCI）が中心となります。患者さんの病状に応じて治療方法が異なりますが、当院では、下記に示す種々の方法での治療が可能です。

1. 待機的PCI（入院予定を組んで行う経皮的冠動脈治療のことで、通常1～2泊の入院で行っています）初期成功率、合併症、再狭窄率いずれも同程度の規模で施行している他施設と比較して同様な成績です。症例に応じた色々な治療方法を使い分けて、これらの成績をさらに向上させることを目指しています。

区分	年月	施行件数	成功率	重大合併症出現数（死亡）
PCI	H02.1～H20.3	3,009	94.2%	45（3）
	H21.4～H21.3	211	91.9%	2（0）

注）重大合併症は死亡をはじめ、急性冠閉塞、重急性血栓性冠閉塞などによる心筋梗塞、心不全、心室細動などの致命的不整脈の出現をさします。

注）H20年度の成功率が低いのは、慢性完全閉塞病変例が多くなっていることによります。

	PCI（総数）	POBA	Stenting	Rotablator	DCA
H02.1～H20.3	3,009	1,248	1,755	142	24
H21.4～H21.3	211	34	177	8	0

【略語説明】

PCI=経皮的冠動脈治療（下記の治療の総称）

POBA=バルーン拡張術：最も基本的な治療手技です

Stenting=ステント植込み術：確実な拡張が得られるため、最も一般的な治療です

Rotablator=拘束回転式粥腫切除術：硬い病変（石灰化病変）を削って、血管内腔を得る治療です

DCA=方向性粥腫切除術：血管内腔にせり出した柔らかい粥腫を削り、血管内腔を得る治療です

現在は行われなくなりました

2. 緊急的PCI（一刻の猶予も許さない状況で行う治療です）
急性心筋梗塞の治療として標準的に施行されるようになりましたが、この治療の成功が急性期死亡、入院期間、長期予後に影響するため、可及的速やかに治療できる態勢づくりと安定した成績を得る努力をしています。下表はほぼ、現在の治療法となった過去6年間の治療成績を示しますが、同規模の施設と比べて標準的といえます。

【平成12年9月1日より平成21年3月31までの間に施行された再開通療法】

施行された患者さんの数	699人
再開通成功者数	679人（97.1%）

【急性心筋梗塞（発症24時間以内）で入院した患者さんの予後（平成18年4月1日～平成21年3月31日）】

区分	全体数	再開通療法を受けた数	受けなかった数
入院患者数	299人	264人	35人
生存	284人	256人	28人
死亡	15人	8人	7人

注）再開通療法を受けることができた患者さんの方が生命予後が良いことを示しています

II 不整脈の治療・薬物治療とペースメーカー治療、カテーテル治療がありますが、以下に薬物以外の治療実績を示します。

1. ペースメーカー植込み手術（交換手術も含まれます）：脈がゆっくりとなる徐脈性不整脈の治療です。

平成2年4月から平成21年3月	724台
平成18年4月から平成21年3月	174台

2. カテーテルアブレーション施行数及び成功数（頻拍発作に対する根治療法です）

		症例数	成功率
WPW 症候群	平成2年4月から平成21年3月	73 例	87.7 %
	平成12年4月から平成19年3月	41 例	92.7 %
房室結節性頻拍	平成2年4月から平成21年3月	65 例	95.4 %
	平成12年4月から平成19年3月	53 例	96.2 %
心房粗動	平成2年4月から平成21年3月	86 例	86.0 %
	平成12年4月から平成19年3月	75 例	88.0 %
その他	平成2年4月から平成21年3月	22 例	27.3 %
	平成12年4月から平成19年3月	10 例	40.0 %

注) その他には、心室頻拍、心房頻拍が含まれます

3. 植込み型徐細動器の植込み手術

致死的不整脈である心室頻拍、心室細動に対する標準的な治療であり、当院では平成17年3月より開始し、平成21年3月末日現在37人の患者さんに植え込んでおります。

4. 心臓再同期療法

重症心不全に対する治療で、当院では平成18年より開始し、平成21年3月末日現在8人の患者さんに植え込んでおります。

クモ膜下出血に対する当科の治療方針

CT 検査等にて診断がついた時点で、病名や病態を患者家族に説明する。

意識レベルなどの神経学的所見、脳動脈瘤の部位、年齢、合併症の有無・全身状態を確認、治療方針を決める。

- ① 原則として、昏睡例や 80 歳以上の症例を除き、早期に脳血管撮影検査を行い、開頭手術を選択する。
- ② 80 歳以上では、発症前生活歴や全身状態などを十分に把握してから患者家族と相談の上治療方針を決定する。
- ③ 昏睡・全身状態不良の症例は、対症療法を行うが、待機して状態の改善があれば手術治療を行う。

クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）治療の実績（2001～2008 年）

クモ膜下出血入院症例 238 例中、昏睡・全体状態不良 40 例、脳動脈瘤の確認ができなかった 7 例、両側解離性椎骨動脈瘤 1 例、高齢のため保存的治療を希望した 4 例を除く 183 例に開頭手術を行った。

軽症群（術前グレード：Hunt&Kosnik I-III）で要介助となった 16 例中 12 例が脳血管攣縮による脳梗塞の合併、3 例が 80 歳以上の症例であった。

手術治療例の死亡は 22 例で 18 例が脳血管攣縮による脳浮腫やその後の重症肺炎などの合併症、3 例が脳出血併発、1 例がシャント感染後合併症であった。昏睡・全身状態不良のため手術治療が施行できなかった 33 例全例が 1 ヶ月以内に再破裂や重症肺炎、多臓器不全などの合併症で死亡した。

治療成績（開頭クリッピング術）

	良好	要介助	死亡
軽症群（I-III）	115	16	6
重症群（IV-V）	10	15	17

良好：mRS（modified Rankin Scale）

未破裂脳動脈瘤

脳動脈瘤は一度破裂すると、クモ膜下出血を発症し、約 50%の人が死亡、約 20%の人に後遺症をきたす疾患である。

現在、未破裂脳動脈瘤が破裂する確立は約 1%前後と推定されているが、脳動脈瘤がいつ破裂するのかあるいは破裂しないのかの具体的な判断は困難である。

当科では、未破裂脳動脈瘤は破裂すると死亡や重篤な後遺症を残す可能性の高い疾患であるため、以下の条件を満たす症例に治療を勧めている。治療の基本は開頭クリッピング術であるが、本人・家族の希望により血管内手術（コイル塞栓術）も選択している。

- ① 75 歳以下
- ② 日常生活が自立していること
- ③ 心疾患や肺疾患などの合併症がない
- ④ ガンなどの悪性疾患の合併がない
- ⑤ 脳動脈瘤の大きさが 5mm 以上

未破裂脳動脈瘤治療実績（2000～2008 年）

頭痛精査や脳ドックで脳動脈瘤を認めた 263 例中 47 例に治療を行った。

- ・開頭クリッピング術 41 例
- ・コイル塞栓術 6 例
- ・合併症：死亡 0 例
 - 一過性の失語症 1 例
 - 慢性硬膜下血腫 1 例

この 2 例とも開頭クリッピング例であった。追加治療により症状は消失し、社会復帰している。

眼科

水戸済生会総合病院における裂孔原性網膜剥離手術成績（2002～2007年）

	手術件数	再手術件数	再々手術件数	強膜内陥術	硝子体手術	非復位 (シリコン油眼)
2002年	19	0	0	15	4	0
2003年	28	5	0	13	15	1
2004年	20	1	1	15	5	1
2005年	20	1	1	13	7	0
2006年	24	3	0	11	13	0
2007年	20	4	1	10	10	1
total	131	14	3	77	54	3

初回復位率 89% 最終復位率 98% 術識の内容は強膜内陥術 59% 硝子体手術 41%

整形外科

人工股関節置換術（オムニフィット、ストライカー社）

長期成績（10年以上、平均12年）

再置換術をエンドポイントとしたとき生存率 96.4%

人工膝関節置換術（ジェネシス I & II、スミス&ネヒュー社）

中間成績（5年以上、平均9年）

再置換術をエンドポイントとしたとき生存率 98.5%

外科

乳癌の治療成績（過去6年間の病期分類別予後）

	症例数	5年生存率
I	56	100 %
IIa	71	100 %
IIb	55	87 %
IIIa	15	85 %
IIIb	44	50 %
IV	18	0 %

当科では浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法、および、早期前立腺癌に対する前立腺全摘除術に力を入れています。

膀胱温存療法はシスプラチンと放射線との相乗効果に着目した治療法で、化学療法と放射線療法の併用療法です。

現在までに筋層浸潤が組織学的に確認された 20 例に施行し、5 年生存率 94.7%、膀胱温存率 89.5%が得られています。

温存された膀胱は通常の日常生活にはなんら支障なく、患者の生活の質を改善していると考えられます。

膀胱温存療法が功を奏していると考えられ、当科では受診患者数が多いにもかかわらず、過去 3 年間で膀胱全摘除術を施行した方は一人に留まっており、浸潤性膀胱癌で亡くなる方はほとんどおりません。

前立腺全摘除術に対してはクリニカルパスを使用し、最新版のパス（第 3 版）では「手術の翌日より経口摂取、翌々日より歩行開始、7 日目のカテーテル抜去（非透視下）、術後 10 日目の退院」を基本とし、入院期間は 14(15)日です。現在 12 例に最新版のパスを使用し、逸脱は 1 例のみで、11 例はパスどおりに経過しています。平成 8 年より 84 例に対して前立腺全摘除術を施行しており、5 年生存率は 100%で、StageC 14 例のうち、1 例のみ癌死しております。全例に自己血を貯血しており、同種血輸血（献血血液の輸血）を施行した方は 2 例(2.3%)に過ぎません。合併症で最も多いものは尿失禁で、術後 1 年を経過した時点での尿禁制率は 91.9%（失禁率 8.1%）で、3 例（4.1%）が尿もれパッドを使用しております。

オムツを要する症例は 1 例のみでした。これらの成績は他の癌専門病院に比較しても遜色のない数値と思われます。

平成 21 年度救急外来患者数 () 内は入院患者数

	内	児	外	皮	脳	整	産	耳	眼	泌	形	心	麻	歯	放	合計
4月	191 (45)	11 (15)	24 (3)	48 (1)	58 (16)	45 (12)	34 (24)	22 (3)	6 (1)	34 (0)	15 (1)	2 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	491 (125)
5月	289 (48)	93 (14)	26 (10)	29 (2)	71 (16)	96 (11)	57 (27)	48 (2)	20 (1)	20 (0)	40 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	789 (135)
6月	221 (50)	58 (9)	19 (8)	25 (3)	55 (17)	64 (4)	49 (34)	32 (4)	9 (1)	7 (0)	39 (2)	0 (0)	9 (6)	9 (0)	0 (0)	596 (138)
7月	267 (60)	83 (13)	21 (10)	27 (1)	66 (13)	1 (8)	74 (31)	31 (2)	16 (1)	15 (2)	58 (4)	12 (5)	10 (6)	4 (0)	13 (0)	698 (156)
8月	294 (63)	95 (12)	17 (6)	34 (2)	62 (16)	61 (8)	57 (27)	27 (3)	12 (0)	24 (1)	40 (2)	12 (2)	13 (7)	2 (0)	0 (0)	750 (149)
9月	322 (67)	79 (18)	26 (7)	41 (0)	64 (20)	86 (13)	68 (30)	25 (4)	18 (1)	15 (0)	18 (3)	11 (3)	6 (0)	5 (1)	1 (0)	785 (167)
10月	295 (67)	128 (14)	23 (12)	33 (0)	55 (15)	54 (11)	54 (32)	28 (1)	17 (7)	24 (2)	33 (1)	13 (3)	6 (5)	3 (0)	0 (0)	766 (170)
11月	337 (62)	220 (19)	16 (7)	29 (0)	51 (17)	35 (6)	32 (15)	37 (2)	9 (5)	28 (3)	27 (2)	7 (3)	3 (2)	3 (0)	0 (0)	834 (143)
12月	368 (57)	171 (20)	17 (8)	22 (1)	50 (18)	50 (7)	62 (37)	37 (1)	11 (0)	23 (1)	47 (0)	5 (0)	3 (1)	3 (0)	2 (0)	871 (151)
1月	317 (54)	105 (18)	24 (16)	31 (3)	58 (17)	66 (16)	37 (18)	28 (0)	18 (0)	22 (2)	30 (2)	18 (6)	6 (5)	3 (0)	0 (0)	763 (162)
2月	235 (50)	76 (21)	10 (4)	16 (0)	57 (21)	44 (9)	34 (18)	25 (0)	6 (0)	19 (2)	35 (1)	8 (1)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	568 (129)
3月	123 (59)	49 (27)	7 (8)	8 (0)	20 (13)	20 (3)	26 (28)	11 (0)	7 (0)	8 (2)	15 (2)	8 (9)	1 (4)	7 (0)	0 (0)	310 (55)
合計	3259 (682)	1168 (200)	230 (99)	343 (13)	667 (199)	622 (108)	584 (326)	351 (22)	149 (17)	239 (15)	397 (20)	96 (38)	61 (40)	39 (1)	16 (0)	8221 (1780)

平成 21 年度科別救急車搬送患者数

	内	児	外	皮	脳	整	産	耳	眼	泌	形	心	麻	歯	放	救	合計
4月	41	6	1	3	26	9	18	5	2	0	5	2	2	0	0	77	197
5月	54	5	6	2	29	14	10	2	1	2	4	4	2	0	0	62	197
6月	49	6	7	2	31	10	11	5	0	1	1	0	5	0	0	71	199
7月	76	6	5	2	24	11	9	3	0	2	9	3	5	0	0	79	234
8月	65	6	1	3	41	10	10	4	6	3	4	2	5	0	0	56	216
9月	57	3	2	4	23	11	12	6	1	3	3	1	5	0	0	60	191
10月	65	5	2	3	24	14	7	4	1	3	3	3	5	0	0	62	201
11月	71	8	1	4	26	6	7	6	0	7	3	3	3	0	0	76	221
12月	64	11	3	3	30	9	11	4	0	0	7	2	1	0	0	61	206
1月	80	5	7	2	25	16	8	5	1	4	2	5	1	2	0	72	235
2月	55	7	0	1	28	5	8	6	1	3	3	2	3	0	0	76	198
3月	81	10	1	0	21	5	14	7	1	3	10	4	5	0	0	64	226
合計	758	78	36	29	328	120	125	57	14	31	54	31	42	2	0	816	2521